

第3次草津市就労支援計画の主な変更点

○就労支援計画への取り組み成果と課題・問題点の整理

第2章 草津市の雇用・就労状況

4. 第2次草津市就労支援計画の取り組み成果と問題点及び新たな課題

- ・第1次草津市就労支援計画にて、就労支援に取り組むうえで不変的課題7つを設定
- ・計画の改定時に前計画期間の取り組み成果を見直す（第2次計画策定時も実施）
- ・「草津市就労支援計画」の関連計画である「第3次湖南地区就労支援計画（2016年3月策定）」を反映しつつ、本市における就労支援課題を盛り込む
- ・7つの課題に対して計画期間内における取り組み成果を整理
- ・2次計画期間内に生じた問題点及び新たな課題を追加
（第2次草津市就労支援計画には記載なし）

例 課題4 専門人材の育成・資質向上を図る

第1次計画 課題を設定

第2次計画 1次計画期間の成果を整理

（成果）

湖南就労サポートセンターが開催する定期的な就労支援相談員等実践講座や、関係機関が開催するセミナー等に積極的に参加することにより、専門性を高めるとともに技能の向上が図られた。

第3次計画 2次計画期間の成果を整理 + 2次計画期間内に生じた問題点を整理

（成果）

相談者に対しての質の高いサービスを提供するため、就労支援相談に関するスーパービジョン（事例研究）を実施し、就労相談員の技術面の育成が図られた。

（問題点）

就職困難者の相談内容が多様化しており、課題が多岐にわたるようになったことにより、相談員の知識および資質の向上が求められるようになった。

草津市就労支援事業推進会議で出された意見

(意見①)

本計画の対象者である「就職困難者等」は「働く意欲がある」ことが前提となるが、相談に訪れる人が面談では意欲があることを口にするが、実際の行動に伴ってこないことも多い。計画内に働く意欲を醸成する文言を、間接的でも良いので盛り込んでどうか。

(回答)

第1章の3「就労阻害要因の概要」＜その他の就労支援に関して＞にて、「働く意欲がありながらも、なかなか就職が決まらない人の企業とのマッチングについて工夫が求められている。」と記載し、就労支援において考慮すべき事項として扱う。

(意見②)

第2章の4「第二次草津市就労支援計画の取り組み成果と問題点及び新たな課題」における成果の根拠は何か。

(回答)

前回の第2次計画でも今回の計画案でも数値的な指標は示していない。就労支援においては客観的なデータが取りづらいのが現状である。計画であれば指標を持つべきではあるが、当計画は相談窓口が抱えている様々な課題の総まとめと解決策の方向付けを示した計画になるため、就労支援担当者が実際にできたこと、できていないことを整理し成果としている。

(意見③)

第2章の4「第二次草津市就労支援計画の取り組み成果と問題点及び新たな課題」の成果について、文言が「できた」という言い切りの形になっている。「行っている」等の表現に変更してはどうか。例えば、「市内企業の個別訪問において、人権教育の啓発ができた」という表現は、現在進行で企業訪問を行っており、未訪問の企業もある。本当に「できた」と言い切ってよいのか。

(回答)

確かに市内企業の全てを個別訪問で人権啓発できた訳ではなく、「できた」と言い切るには根拠に乏しい。他の箇所を含めて「できた」ではなく、「図られた」「努めることができた」等のワンクッション置いた表現に改める。